

## 滋賀県大津市 丸栄百貨店



### 1. 火災の特色

マーケットの火災であり、天然ガス転換工事をするため、日常使用していない、薪のかまどを使用しており、煙突が天井を貫通する部分が、加熱し出火し約1600㎡を全焼したものである。

### 2. 出火日時

(1) 出火日時

昭和54年6月22日（金）11時25分ごろ

(2) 覚知日時（覚知方法）

昭和54年6月22日（金）11時55分（119番通報）

(3) 鎮火日時

昭和54年6月22日（金）13時35分

### 3. 火元の概要

(1) 所在地

滋賀県大津市栄町8番31号

(2) 火元建物等の名称

丸栄百貨店

(3) 火元建物の構造等

① 建築年月日

昭和22年4月ごろ木造トタン葺平屋建新築

② 増改築の状況

昭和33年 鉄筋スレート葺1階 増築

昭和36年 木造2階建 増築

③ 建物用途

マーケット（4項）

④ 構造

木造一部簡易耐火造 地上2階建

⑤ 面積

建築面積：1,019.0㎡

延べ面積：1,620.0㎡

⑥ 収容人数、入居者、世帯数等

ア 収容人員 209名

イ 世帯数 1世帯

ウ 当時在館者 25名

⑦ 従業員数

約50人

⑧ テナント数

14店舗

⑨ 建物階層別用途

1階 店舗（11店舗）

2階 店舗、住居（3店舗及び1世帯）

(4) 消防用設備等の設置状況

① 消火設備 消火器、屋内消火栓設備

② 警報設備 自動火災報知設備、漏電火災警報器

③ 避難設備 誘導灯

(5) 防火管理の状況

① 防火管理者 選任済（年月日は不明）

② 消防計画 届出済（年月日は不明）

③ 避難訓練 実施されていない。

#### 4. 気象状況

(1) 天候

晴れ

(2) 風位、風速

風位：南西 風速：5 m/s

(3) 気温、湿度

気温：31.4℃、相対湿度：48%、実効湿度：72.8%

(4) 警報・注意報

なし

5. 出火原因

(1) 発火源

煙突貫通部

(2) 経過

伝導過熱したため

(3) 着火物

小屋裏構造材（タル木）

6. 損害状況

(1) 人的被害状況

負傷者1名 従業員（男36才）

(2) 物的損害状況

① 火元建物

ア 焼損程度 全焼

イ 焼損面積 1,620㎡

ウ 損害額 192,021千円（建物24,400千円、内容物159,791千円、その他7,830千円）

② 類焼建物

ア 類焼建物 1棟

イ 焼損程度 半焼

ウ 焼損面積計 150㎡

エ 損害額 21,245千円（建物2,770千円、内容物18,425千円、その他50千円）

7. 火災の経過（火災の様態）

(1) 出火場所等の状況

出火点とみられる1階南西隅の総菜店「かね萬食品」では業務用の総菜の仕込みをパート従業員3名が行っていた。また出火時店内には25名の客等がいた。

(2) 出火に至るまでの経過

亜鉛鉄板製かまどの煙突が天井を貫通する部分が加熱し出火した。

(3) 火災発見の経緯

パート店員3名が業務中、11時30分ごろ、かまどの煙突が天井を貫通する部分の下部約20cmの部分が所が真っ赤になって、煙が出ているのをパート店員の1名が発見した。

(4) 消防機関への通報状況

火災発見者であるパート店員が、付近の者に知らせ、それを聞いた店主が119番通報をしている。

(5) 初期消火の状況

従業員がバケツリレーで屋内側及び屋外側の両面から初期消火を実施したが、かまどの煙突

が貫通している周囲の天井はトタン張りであり、また屋根部分についてもトタン張りであったことから、水は有効に出火部分にはとどかなかった。

(6) 避難の状況

11時40分ごろ「かね萬」の営業所長が従業員に指示して、在店者約25名を裏口広場に避難させた。

(7) 自衛消防隊の活動状況等

同百貨店は、防火管理者が選任され、消防計画も定められており、自衛消防隊も編成されていたが、バケツリレーによる初期消火のみで、屋内消火栓設備は使用されていなかった。

また、自衛消防隊により避難誘導が行われ、全員避難することができた。

(8) 火災拡大の状況

① 出火場所が目につきにくい煙突貫通部からであったため、発見が遅れ小屋裏に延焼拡大した。

② 初期消火はバケツリレーによるものだけで、屋内消火栓設備を使用した初期消火ができていなかった。

③ 昭和22年建築の老朽木造建物であることから、小屋裏の防火上の区画等が形成されていなく、たび重なる増改築により複雑に結合されていた。

## 8. 消防機関の活動状況

(1) 出動隊等

① 出動車両

消防署	8台
消防団	7台
自衛消防隊	2台
計	17台 (うち内消防艇 1台)

② 出動人員

消防署	54名
消防団	87名
自衛消防隊	13名
計	154名

(2) 消防機関の消火・救助活動の状況

別図1の消防活動図兼配置図参照。

## 9. 問題点・教訓

(1) 長い間使用していない薪のかまどを使用する際、煙突等の点検がされていなかった。

(2) 自動火災報知設備や屋内消火栓等は設置されていたが、適切に使用されていない。

(3) 増築を繰り返した老朽建物であることから、建物状況把握が困難であった。

図1：消防活動図及び付近図

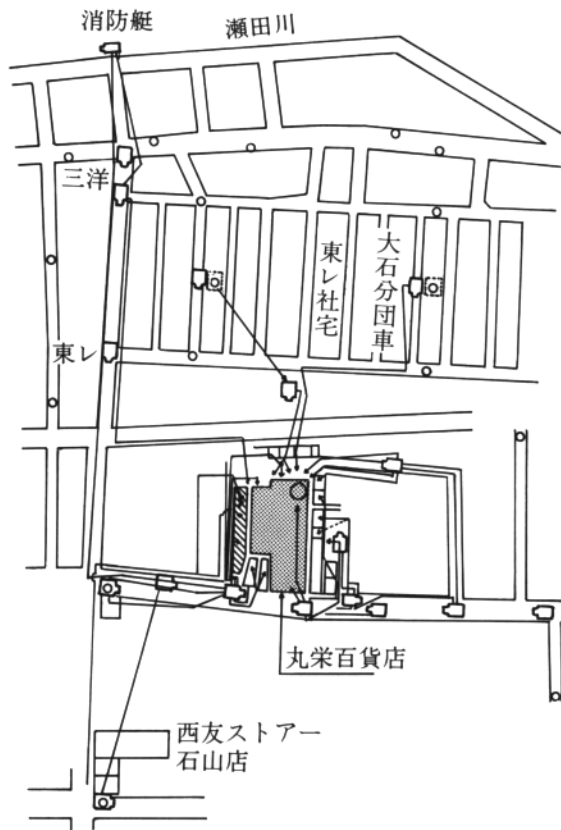
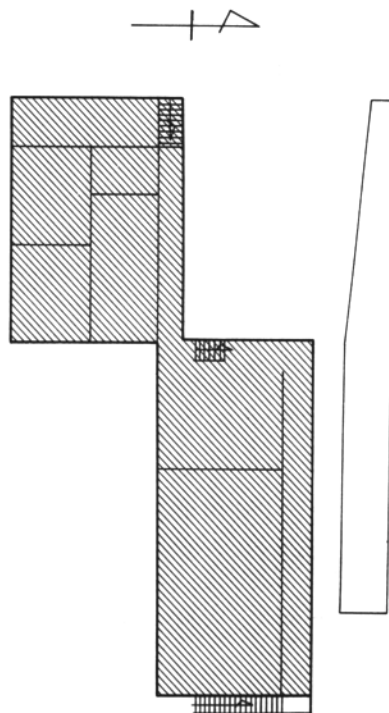
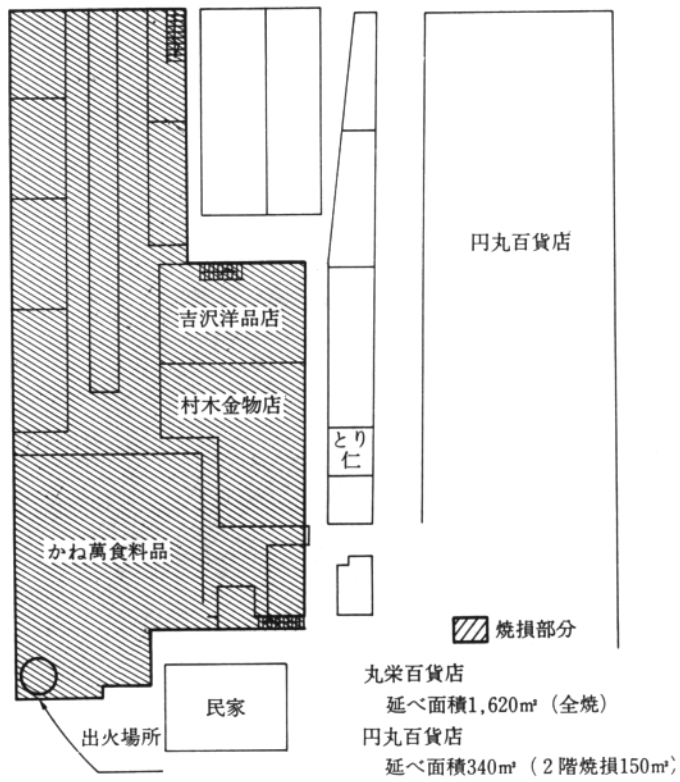


図-2：1階平面図



図一 3 : 2 階平面図



図一 4 : 出火場所拡大平面図

